

## 論文の内容の要旨

### 論文題目： 集団による知的創造活動と空間特性に関する研究

氏名 金 元圭

本研究は知的創造活動を行う人々が活動を行う空間でどれほどの効率を上げ、その空間をどのように評価し、影響を受け、その空間と如何なる関係を結ぶのかを実験や調査を通じて定量的かつ定性的に究明することを目標とした。

「第一章：ひと・創造・空間」では、人の知的創造活動が重要視されつつある現代の産業構造とオフィスを取り巻く現状を俯瞰し、これに関連した建築分野の研究を大きく 4 つのカテゴリに分け、その特徴を説明している。また、人と空間の関係に関する諸研究をまとめ、これらを基本とし、本研究の対象・特徴・方法・目的を明らかにしている。

「第二章：集団による知的創造活動と空間特性（色彩と姿勢）」では、空間の色彩と、椅子やテーブルなど、ひとの姿勢と関係した空間の要素が人の知的創造活動に如何なる影響を与えるかを、実験を通じて明らかにした。

30 人の被験者を対象に、「色彩」の異なる二つの実験室（有彩色、無彩色）で、6 つの「姿勢」のレイアウト（テーブル、標準座位、座位近接、立位、低座後傾、ハイスツール）を用意し、ブレインストーミングを行った。

#### その結果

- ・ 有彩色の実験室 1 のほうが無彩色の実験室 2 より回答数が多かった（効率が良かった）
- ・ 最も回答数の多いレイアウトは、実験室 1 は「テーブル」、実験室 2 は「低座後傾」であり、最も回答数の少ないレイアウトは、実験室 1 は「標準座位」、実験室 2 は「テーブル」であった。
- ・ 実験室 1 で最もブレストのしやすい姿勢は「立位」であり、しにくい姿勢は「低座後傾」であった。
- ・ 実験室 2 で最もブレストのしやすい姿勢は「低座後傾」であり、しにくい姿勢は「ハイスツール」であった。
- ・ ブレストのしやすい理由、そして、しにくい理由として最も多く言及されたのは実験室 1, 2 共に「姿勢」に関することであった。
- ・ ブレストのしやすい、しにくい理由に関するコメントを調べてみるとその 1/4 に該当する内容は「他の被験者との関係」に関するものであった。
- ・ アンケートの心理評価項目を調べてみると「一体感」と「満足度」、「発言しやす

さ」と「集中度」、「窮屈度」と「快適度」、「楽な姿勢」と「快適度」の間に強い相関が見られた。

などの結論を得た。

「第三章：集団による知的創造活動と空間特性（スケールと形状）」では、空間のスケールと、形状が人の知的創造活動に如何なる影響を与えるかを、実験を通じて明らかにした。

20人の被験者を対象に室の壁や天井を動かせる実験室を用いて「スケール」や「形状」が集団で行う知的創造活動にどのような影響を与えるかを調べた。部屋の形状は「標準」、「通路」、「三角」、「タワー」、「ホール」の五つのレイアウトを用意し、「標準」を除いたすべてのレイアウトが何らかの圧迫感を与えるように（壁の間隔が狭い、天井が低い）スケールを設定した。

実験の結果

- ・ 最も回答数の多いレイアウトは、「三角」であり、最も回答数の少ないレイアウトは、「タワー」であった。
- ・ 最もプレストのしやすいレイアウトは「標準」であり、しにくいレイアウトは「通路」であった。
- ・ プレストのしやすい理由として最も多く挙げたことは「壁までの距離」、「部屋の形」に関することであった。
- ・ また、プレストのしにくい理由として最も多く挙げたことは「部屋の形」と「他の参加者との距離」に関することであった。
- ・ この実験でもプレストのしやすい、しにくい理由に関する具体的なコメントを調べると、他の被験者との関係に関するものが全体コメント数の約35%に及んだ。
- ・ アンケートの心理評価項目を調べてみると「自由度」と「活気」、「発言しやすさ」と「集中度」、「自由度」と「快適度」、「窮屈度」と「快適度」の間に強い相関が見られる。

という結果を得た。

「第四章：ひとりの考える空間」では、生活の中で人々が考えるときどのような場所を選び、如何なる理由でその場所を選ぶかを、設問を通して調べることで、考える人と場所の特徴の関係をより明確にすることを試みた。

104人を対象にアンケートを行い141の事例を得た調査の結果、

- ・ 事例に挙げた141の場所は大きく分け「プライベートな場所」と「パブリックな場所」に区分することが出来た。そのうち39%は自分の部屋、お風呂など「プライベートな場所」であった。「パブリックな場所」は「公共の場所」（全体の42%）と「仕事の場所」（全体の12%）に分けることが出来た。
- ・ 事例の場所を挙げた理由を調べたところ、「ひとりになれる」、「まわりが他人ばかり」など、人とのかかわりに関するコメント（全体の45%）が最も多かった。そ

- ・ 上記の理由以外にも「情報」や「道具」、「姿勢」に関する内容や「音」、「光」に関する内容が多く挙げられた。

という結果を得た。

## 「第5章：総括」

以上の実験や調査で明らかになった事をまとめると

- ・ 集団で行う知的創造活動も、ひとりで考える場所も、人間と空間の関係だけでなく、その空間の特徴によって形成される人と人の関係も重要である。
- ・ ひとりの考える空間に関する調査を通じて見られた人と環境による刺激の関係を考察してみると。刺激の減る方向の空間を「修道院的空間」、刺激の増える方の空間を「市場的空間」とすると、人は考える場所を求めるとき自分の心的、身体的状況や思考の種類に合うように「修道院的空間」と「市場的空間」の間で程よい均衡を保つ場所を利用していると考えられる
- ・ 同じ姿勢でも好む人と好まない人がいること、一定の傾向が見られるにせよ、様々な空間を知的創造活動に利用している人たちがいることを考えると、特定の場所を知的創造活動のための空間と限定することより、多様な空間をワーカーの思いの向くままに（創造的に）利用させたほうが望ましいと考えられる。

という結論に至った。